

ウィズコロナの現実で

企業が対応すべきこと

町田市経営診断協会理事 太細貞治ただよ



残暑の候、皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。日頃より当協会の活動全般にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は5類へ移行したことで新しい段階に入りましたが、感染症の流行が終息したわけではなく、改めてウィズコロナの現実を知らされています。インバウンド消費の復活が景気を上向かせており、全体としては明るい兆しも見えているものの、ロシアのウクライナ侵攻がさらに長引き、エネルギー価格・物価高騰の影響は長期化しており、依然として苦戦が続いている事業者は多いと思います。

感染症が長引く中での減収減益を契機として、事業の見直しを正面から取り組みたいと商工会議所や支援機関を訪れる事業者が増えています。自社が少しでも優位に立てる展開を考えて、新製品・新サービスの開発、新市場進出、事業・業種転換など、思い切った事業の見直しに意欲を持つ事

業者は、既に全国で約十萬社が事業再構築の計画書を作成されて、その内の約半数が事業再構築補助金を採択されておられます。

こうした事業者様は、コロナ融資で調達した借入金の返済が始まる中、変化をチャンスと捉えてアフターコロナを展望した新たな事業展開に果敢に取り組んでおられ、その熱意に心から敬意を表したいと思います。ウィズコロナの現実の中で、こうした事業者様に少しでも役立つ取り組みを考えてみました。

◎自社でも出来るデジタル化を一層推進する。この背景としては業務の効率化と人手不足への対応の表裏両面があります。生産や販売の管理工数をIT導入で効率化が期待できます。また、ソフトウェア型のロボットを利用して、オフィスの定型業務やルーチンワークを自動化してくれるRPAなど、近年多くの企業で導入されています。

◎自社で人を育てる仕組みを再考する。人手不足はますます深刻化しており、今後は人件費の高騰も予測されています。採用の奪い合いだけでなく、今の社員を大切に育て、自社の持続的な成長

の源泉とする事も大切です。賃金制度の見直し、年功序列からの脱却、人材育成の仕組み作りなど、重要なのは経営者の人を育てる熱意を形にする事だと思えます。

◎小さな改善でもスピード感を持って積み重ねる、改善や改革の想いだけではなく、具体的な計画を浸透させて数字で進捗を共有することが社員教育にもつながります。

私も町田市経営診断協会は、地域経済発展へ

の貢献を目指して、行政や経済団体、金融機関などと連携しながら、事業者様を支援する専門家集団です。国・東京都・町田市の各種支援メニューや補助金の支援は勿論、事業承継や業務効率化、人材育成、売上アップへの支援など、事業者の皆様

に寄り添う「経営のかかりつけ医」として、健全な経営を支える役割を果たして参りますので、引き続きお声がけ下さい。

【当協会の無料相談】お問い合わせは、電話〇八〇一五一九九一ー一四〇・ホームページ<http://www.mca-consul.gr.jp/>

8月25日(金) 町田ジャーナル

令和5年(2023年)

第939号

月刊

毎月15日発行(1・8月は25日)

発行所 株式会社

町田ジャーナル社

東京都町田市旭町2-1-3 〒194-0023
編集兼発行人 堀江行人 電話・FAX 042(726)8447